



学校だより

10月号

横浜市立不動丸小学校 令和3年9月30日

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/fudomaru/>

今の時代を生きていく子どもたちを守るために

校長 山下 謙一郎

新型コロナウイルス感染症の流行で、様々な活動が制限され、生活様式も大きく変化しました。外出時のマスクの着用、街中で店舗に入る際の手指の消毒は、日常の一部となり、学校生活では、給食時はしゃべらない、音楽でリコーダーは使わない、調理実習はしないなど、これまで当たり前だったことができないことに慣れてしまいました。3年生以上はこれが本来の学校の姿ではないということは知っていますが、1、2年生は学校とはこういうものだと思って育ってしまっています。まだまだ厳しい社会情勢ですが、早く本来の教育活動に戻る日が来るのを切に願っています。

さて、先日は「心と体の健康アンケート」へのご協力、誠にありがとうございました。学校では見られない、コロナ禍での家庭での子どもたちの様子、また分散登校中の家庭学習の様子などについて伺い知ることができ、大変感謝いたします。

アンケートを集約してみると、「運動不足からかすぐに疲れる」「朝決まった時間に起きられず、生活リズムが乱れている」「イライラして怒り出すことが増えた」「家だと勉強に集中できず困っている」「分散登校のグループが違うので仲良しの友達に会えなくて寂しい」「コロナが怖くて外出したくない」など、様々な問題が起きていることが分かりました。これらの様子は、学校でも表出している子もいれば、一切そのような素振りを見せない子もいます。表出できる子はSOSを発信しているので支援をしやすいのですが、平然とした様子でいる子の方が実は危険な可能性があります。

そこで、学校ではこのコロナ禍において不安に感じる子どもたちの心のケアをするために、朝会で、児童支援専任が映像を交えながら話をしました。私も、子どもたちがどのように話を聞いているか各教室を回って見ていましたが、想像以上に子どもたちが真剣に聞く姿を見ることができました。

また、朝会后には各クラスで担任の先生が子どもたちの思いや考えを丁寧に聞き取りながら話をしました。どこのクラスでも子どもたちから様々な思いや感じていることが次々と出され、一つひとつ先生に受け止めてもらうことで、表情が和らいでいくのを感じることができました。

これからも、不動丸小学校は教職員全員で子どもたちの様子を注意深く見つめ、子どもに寄り添い、丁寧に話を聞いて、安心・安全な学校づくりを進めていきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様には重ねてのお願いとなりますが、これからもお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

